

彙 報

会長 井 上 和 子

昭和59年度第2回常任委員会

日 時：9月8日（土）午後1時30分～5時30分

場 所：国際基督教大学，教育研究棟—247号室

出席者：井上和子（会長），池上二良，小泉 保，竹内和夫，長嶋善郎，野元菊雄，堀井令以知，村山七郎，湯川恭敏

オブザーバー：服部四郎（副会長），松本克己（編集委員長），村木正武（事務局）

議事ならびに報告

- （1） 制度検討委員からの報告とそれについての審議。
- （2） 日本学術会議会員候補者およびその推薦人の選出について。'
- （3） 第89回大会について（研究発表の選定，プログラム，司会者の決定等）。
- （4） 第90回大会開催校について。
- （5） 昭和59年度会計の中間報告。
- （6） 九学会連合理事の野元菊雄氏より九学会連合の分担金が昭和59年度より8万円となる旨の報告があり，了承された。
- （7） 会長より11月2日に電気通信学会と共催で講演会を開く旨の報告があった。講演者は，藤村靖，M. P. Marcus，J. S. Brown，B. C. Smithの四氏が予定されている。
- （8） 沖縄研究奨励賞，朝日賞候補者の推薦についての報告。

昭和59年度第2回委員会

日 時：10月13日（土）午前10時～

場 所：東北大学文学部会議室

出席者：井上和子（会長），池上二良，井上史雄，今津藤一，大東百合子，加藤正信，小泉 保，近藤達夫，杉藤美代子，竹内和夫，徳永康元，長嶋善

郎, 中村 完, 野元菊雄, 蛭沼寿雄, 堀井令以知, 松本克己, 矢島文夫,
屋比久浩, 吉田金彦 (以上 20 名)

委任状: 45 名

オブザーバー: 服部四郎 (副会長), 下宮忠雄 (会計監査委員), 村木正武 (事務局)
故都竹通年雄氏 (委員) の冥福を祈って黙禱する。

議事なららびに報告

- (1) 第2回常任委員会の報告。
- (2) 第90回大会 (昭和60年春季) は昭和60年6月8日 (土), 9日 (日) の
両日, 独協大学 (運営委員長, 長嶋善郎氏) で行われることとなった。
- (3) 昭和59年度会計の中間報告。
- (4) 日本学術会議会員候補者およびその推薦人の選出の件, ならびにそのた
めの学会登録についての報告。なお, 会員候補者および推薦人は後日委
員会の互選 (郵便投票) で決めることとなった。
- (5) 会長より, 第20回国際音声言語医学会が昭和61年8月3日~7日に東京
で開かれ, 本学会は協賛者となる旨の報告があり, 了承された。
- (6) 会長より, 『言語研究』に出版社の広告および関連のある学会の案内を
掲載することについての提案があった。審議の結果, 編集委員会が適当
と認めたものについては, 掲載してもよいこととなった。
- (7) 会長より, 文部省学術用語集の編集についての報告があり, その専門委
員として, 選挙の結果, 次の各氏が選出された。

小泉保, 国広哲弥 (次点者: 松本克己)

- (8) 文部省科学研究費補助金の配分審査委員の選挙。日本学術会議よりの依
頼にもとづき上記の選挙を行った結果, 次の各氏を推薦候補とすること
になった。

第一段委員 松本克己, 杉藤美代子

- (9) 制度検討委員会から会則等の修正案が提出され, 補正を加えた上で, 票
決によって決定された。(票決に際しては重要事項と指定された。)

賛成 18, 白票 1

なお, 移行措置として下記のことが承認された。

改訂された規則（会則，選挙規則，会議規則，選挙細則，重要な国際会議への派遣代表の選出方法，委員会内規）は昭和60年4月1日より施行する。ただし，そのために必要な選挙は，現行の規則ではなくて，改定された規則によって行う。現在の評議員はそのまま，副会長は顧問として留任し，その他の役員の任期は，昭和60年3月31日までとする。

第89回大会

期 日 昭和59年10月13日（土）・14日（日）

会 場 東北大学

第1日（10月13日）

開会の辞 午後2時より

公開講演 “The value of a corpus in linguistic research : a reappraisal”

G. N. Leech

「辞書の幻想」

中村 完

会員懇親会 午後5時30分より

第2日（10月14日）

研究発表 午前9時30分～12時

(1) ラテン語の「不定詞つき対格」における中立的格表示と自由語順

後藤 齊

(2) ガリシア語の人称不定詞について

浅香 武和

(3) German Expletive *ES* and Syntactic Parameters

小野 隆啓

(4) ゆれて tough 構文

五十嵐義行

(5) There 構文における名詞句の定性

福田久美子

会員総会 午後1時10分～1時30分

研究発表 午後1時30分～4時45分

(6) 現代モンゴル語における閉音節化現象

栗林 均

(7) 日本語東京方言複合名詞のアクセント

立石 浩一

(8) 「～ダロウカ？」の談話における機能

井上 優

(9) 知っていることと知らないこと——対照語用論の試み——

田窪 行則

(10) 「しか～ない」構文の構造

許斐 憲二

(1) 日本人とアメリカ人にみられる敬語行動の差異

荻野綱男, 井出祥子, 川崎晶子, 生田少子

閉会の辞

◇物故会員

都竹通年雄（昭和59年8月2日逝去）

◇ 受贈図書リスト (昭和59年6月11日～昭和59年11月30日)

- カナノヒカリ ダイ743—746ゴウ (カナモジカイ 1984)
- 外国文学研究 61 (立命館大学外国語科連絡協議会 1984)
- 計量国語学 14巻5-6号 (計量国語学会 1984)
- 研究報告集 5 (国立国語研究所 1984)
- 言語学論叢 第三号 (筑波大学一般・応用言語研究室 1984)
- 現代ブルガリア語入門 (泰流社 1984)
- 考古学雑誌 第69巻 第4号, 第70巻 第1号 (日本考古学会 1984)
- 国語学 137 (国語学会 1984)
- 国語国文 第53巻 第7号 (中央図書出版社 1984)
- 国立民族学博物館研究報告 第9巻 第2号 (国立民族学博物館 1984)
- 国立民族学博物館国内資料調査委員調査報告集 5
(国立民族学博物館情報管理施設 1984)
- 宗教研究 第58巻 第1-2輯 (日本宗教学会 1984)
- 史苑 第43巻 第2号 (立教大学史学会 1984)
- 人類学雑誌 第92巻 第2-3号 (日本人類学会 1984)
- 第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議経緯と成果 (東方学会 1984)
- 通信 第50号 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1984)
- 東京外国語大学論集 第34号 (東京外国語大学 1984)
- 東方学 第六十八輯 (東方学会 1984)
- 東方学会報 №46 (東方学会 1984)
- 東洋音楽研究 第49号 (東洋音楽学会 1984)
- 都大論究 第21号 (東京都立大学国語国文学会 1984)
- 名古屋学院大学外国語教育紀要 №10
(名古屋学院大学外国語教育研究センター 1984)
- 日本学士院紀要 第三十九巻 第二一三号 (日本学士院 1983—1984)
- 日本学術会議月報 第25巻 第5-9号 (日本学術会議事務局 1984)
- 日本民俗学 152—154 (日本民俗学会 1984)
- 放送文化 1984年 7-10月号 (日本放送出版協会 1984)
- 民族語文 1984 2-4 (中国社会科学出版社 1984)
- みんぱく 1984年 6-10月号 (民族学振興会 1984)
- 山形女子短期大学紀要 第16集 (山形女子短期大学研修委員会 1984)
- 論集 34 (神戸大学教養部 1984)
- alsed № 34 (UNESCO 1984)

- ArOr 1. VOLUME 52/1984 (Academia Praha 1984)
 CHINESE WRITING? CHINESE VOCABULARY? VOL. V-VI
 (Dr. NGUYEN HOAI NHAN 1984)
 Commentationes Humanarum Litterarum 73 1984
 (Societas Scientiarum Fennica 1984)
 ETUDES INDO-EUROPEENNES
 (INSTITUT D'ETUDES INDO-EUROPEENNES 1984)
 INTERNATIONAL COUNCIL OF SCIENTIFIC UNIONS YEAR
 BOOK 1983-1984 (ICSU)
 LEXICON №.13 1984 (岩崎研究会 1984)
 LINGUISTIQUE ET LITTERATURE 4. 1984 (ACADEMIE BULGARE
 DES SCIENCES, CENTRE D'INFORMATION SCIENTIFIQUE 1984)
 LINGUISTICA HISPANICA VOL. 2-6
 (関西スペイン語学研究会 1979-1983)
 LITERATURE MUSIC FINE ARTS VOLUME XVII 1984 Number 1
 (GERMAN STUDIES 1984)
 NAŠE ŘEČ 1-2. 1984 (naklada telství Českošlovenské
 akademie věd 1984)
 NEWSLETTER 16
 (THE SCANDINAVIAN INSTITUTE OF ASIAN STUDIES 1984)
 Plains Miwok Dictionary (University of California Press 1984)
 Relativization and Nominalized Clauses in Huallaga (Huanuco)
 Quechua 同上)
 Sales Talk in Japan and the United States
 (Georgetown University Press 1984)
 SLOVO A SLOVESNOST 2-3 XLV-1984
 (ČESKOSLOVENSKA AKADEMIE VĚD 1984)
 Studies in Relational Grammar 2
 (The University of Chicago Press 1984)
 The Function of Word Order in Turkish Grammar
 (University of California Press 1984)
 West Futuna-Aniwa: An Introduction to a Polynesian Outlier
 Language (University of California Press 1984)
 Yuki Vocabulary (University of California Press 1984)
 ВЕСТНИК ЛЕНИНГРАДСКОГО УНИВЕРСИТЕТА № 8. № 14
 (Ленинград 1984)

Русский Язык в Школе 3. 1984

(Москва 1984)

Українська мова і література в школі 5-8

(Київ Радянська Школа 1984)

第20回国際音声言語医学会議の御案内

第20回国際音声言語医学会議が、日本音声言語医学会の担当により、下記の如く開催されます。皆様多数の御参加を御願ひ申し上げます。

昭和59年8月

第20回国際音声言語医学会議組織委員会

日本音声言語医学会

会 長 切 替 一 郎

記

期 日：昭和61年（1986）8月3—7日

開 催 地：東京（会場は追って発表します）

特別講演：

1. Pathophysiology of Motor Speech Disorders (Dysarthria)

Dr. H. Hirose, Japan

2. An International perspective on Fluency Disorders

Dr. H. Gregory, USA

3. Universal and Language-specific Symptomatology and
Treatment of Aphasia

Dr. S. Sasanuma, Japan

4-1. Early Surgical Technique for Cleft Palate and Results

Dr. R. Marek, Dr. J. Paume, Mrs. Trickett and

Mrs. Mousset, France

4-2. Velopharyngeal Insufficiency

Dr. J. Hirschberg, Hungary

一般演題：音声言語障害に関連する幅広い領域からの演題を募集します。

公 用 語：英語，仏語，独語，日本語

（主会場には同時通訳があります）

参加申込：昭和60年4月30日までに第一次参加申込書を事務局までお送り下さい。

第一次申込の方には、追って詳細な第二次御案内を御送りします。

参加申込に関する御連絡は下記あてに御願ひ致します。

〒107 東京都港区赤坂1-8-10 第9興和ビル

(株) サイマル・インターナショナル

第20回国際音声言語医学会議組織委員会事務局

電話：03-586-8691

◇ 本誌は文部省昭和59年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。

正 誤 表

(『言語研究』86号分)

ページ	行	誤	正
69	-5	図1に	図1 (p. 102) に
71	表 1.3	松原照子	杉原照子
71	注 2)	注 10	注 11
71	注 3)-11	従事してゐる	従事している
72	注 5)	表 16 に	表 16 (p. 100) に
75	11	<u>問題になるものはない</u>	<u>問題になるものはない</u>
82	-4 左端	$\overline{\text{アノ〇〇}}$	$\overline{\text{アノ〇〇}}$
82	最下行左端	$\overline{\text{アノ〇〇}}\triangleleft$	$\overline{\text{アノ〇〇}}\triangleleft$
84	注 21)	注 17	注 18
84	注 22)	注 16	注 17
85	表8. 3, 2=1の例	線を右端まで伸ばして、	$\overline{\text{〇〇}}\triangleleft\triangleleft$ にする。
86	-5	な1 お'	なお1'
87	表 9.2 d 欄	$\overline{\text{〇〇}}\triangleleft\dots$	$\overline{\text{〇(〇)}}\triangleleft\dots$
87	表 9.3	(3類) 手, 火	(1.3類) 蚊, 手, 火

ページ	行	誤	正
87	表 9. 4	(1. 2類) 蚊, 葉	(2類) 葉, 日
87	表 9. 24, 5=0の下	「以下略」をつけ加える	
93	-4	(b, f, h 欄)	(d, f, h 欄)
94~95		表 13 (見開き) の, p. 95 側が 1 行近く上にずれている部分がある。	
	-2	テ 2, テ 3, テ n 型	テ 2, テ s, ... テ n 型
96	注 34)	ハタケカラサエモ (テ 4 α)...	ハタケカラデサエモ (テ 4 α)...
100	表 16. -13	(右端=真鍋本浦の列, イワの行) -1	1
101	-3	N型アクセントの一般性	N型アクセントの一般特性
103	注 2	示した,	示した。
109	18	ney	nay
110	14	p. 95	p. 109
113	12	p. 97	p. 111
113	24	鳥 (くろげら	鳥」 (くろげら
114	12	mima	nima
114	10)	指摘さたれ	指摘された
115	10	p. 92	p. 106
115	16	p. 95, p. 98	p. 109, p. 112
116	13	指示すもの	指示するもの
117	3	99, p. 101	113, p. 115
119	8	二次的構成要素と	二次的構成要素」と
119	9	p. 100-101	p. 114-115
120	19	民俗論集	民俗論叢